



医療法人社団萌気会  
 在宅療養支援診療所 (二日町)  
 在宅療養支援有床診療所 (浦佐)

1

Vol 344  
 2021/1.15

# もえぎ

門山妙子 さん書



撮影地：南魚沼市二日町  
 撮影者：小林 順正  
 萌気園二日町診療所より八海山を望む

明けまして  
 おめでとうございます  
 本年も宜しく  
 お願い致します



アフターコロナへ……………	2
2021年 新年のごあいさつ……………	3
漫画 黒岩卓夫一代記……………	4
黒岩先生と話そう 皆でワクワクトーク……………	5
フォトギャラリー……………	6
勤続10年表彰受賞者……………	7
萌気園通所リハビリセンター浦佐の二人……………	8



2021年、新春をお迎えし、いかがお過ごしでしょうか。

私はこの4月に84歳になり、次男巖志浦佐診療所院長に理事長職を譲ります。どうぞよろしくお願ひします。

さて、アフターコロナについても、マスコミ、出版等に多くの識者が提言しています。私はアフターコロナへの思いをなるべく具体的に提言したいと思います。

## I、アフターコロナを語る枠組（今回は医療を除外します。）

1. 人口偏在の根本的是正  
一極集中、都市化政策の流れを田園・農山村との共生社会づくりへと転換する。
  2. 日本の風土・文化・歴史を学び、故郷を念頭に人間の幸せとは何かを考え意識を変える。
  3. 日本の教育要綱を改め、上昇志向から横へ繋がり、友達と共に生活力をつけることを基本とする。
- この3点をアフターコロナのキーポイントとして検討していただきたい。以下の素材は、敢えてわかりやすいものにしました。

## II、検討する素材（私の体験から新しい故郷をつくる）

私は満州から引揚げて信州の山村、その一地区（90戸500人）の村で小4から中3まで山猿ランブ少年として過ごしました。

1. サワガニ、カエル、ミミズの暮らす流れ水を飲んでいました。  
一何百年もここで生きてきた生物が安全の証です。
2. この村は戦後高度成長の陰で昭和51年までに戸数ゼロになりました。消滅のひと押しは、歴史上初の自動車の入れる道路ができて間もなくでした。老人の中には道ができなければよかったと嘆く者もいました。
3. 「ふるさと」は、嗅覚には残ります。老人たちは全身で感じていたでしょう。私の嗅覚は、手造りの味噌に、秋の太陽で干した大根葉の醸し出す味噌汁の香りとして残っています。足早く去って行く信州の秋の姿でもあります。
4. 家なきあと、小村の峠には、唐松林を越えて白馬から槍ヶ岳まで眺望できる景観だけが残りました。
5. しかし、しばらくして、この峠に太陽光発電とテレワークする一家族が暮らしはじめました。30年前のことです。

## III、検討する素材（建設中のリニア中央新幹線）

1. 品川、名古屋間（要40分）だけで9.7兆円。2037年完成。さらに大阪までの予定。
2. リニアプロジェクトの目的不明瞭。地方には駅もなく、自然環境破壊や電磁波への不安などで多くの反対運動、訴訟で争われている。2014年には「日本科学者会議」は撤回・中止声明。
3. リニア計画は、大都市の連結で大都市をますます肥大化し地方は委縮。アフターコロナ政策と逆行。

## IV、まず始めること

1. リニア中央新幹線建設を直ちに中止する。
2. 既設の新幹線は全国民が公平に利用できるようにする。  
東京都民の電車・地下鉄利用と同じように低料金で気軽に利用できるようにする。  
定期券も同様。国民の利便性の格差を是正する。
3. 自然・農村～都市の連携、移住、新しいコミュニティ創生に多様な方式と存分な支援を実行する。
4. 安倍政権の目玉である「まち・ひと・しごと創生事業」（令和2年度1兆円）は貧弱で成果なし。

## V、教育についてはここでは良寛だけに限る。

ひとつだけ例を挙げたい。それは新潟では誇りである良寛禅師である。良寛さんが公教育から削除されて久しい。30歳以下の若者たちは全く知らない。日本人の精神性、レベルの高い歌詩、神技といわれる書、そして貧困と托鉢の生活。ターミナルケアのモデルを教育の場に復活させてほしい。

## VI、アフターコロナへの考察は、今回は人口分布の是正、都市肥大化の抑制、多様な方法での地方・農村への移住。新しいコミュニティの創造を第一歩にしたい。

それには、こども園から大学まで、教育理念を刷新し、新しい日本をつくる第一歩をアフターコロナの出発点としたい。

# 2021年新年のごあいさつ

医療法人社団萌気会 事務局長 上村 光男

今年、丑年です。「牛」は古くから食牛や乳牛、耕牛と呼ばれ酪農や農業で人々を助けてくれる存在として重要な生き物でした。大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から丑年は「我慢(耐える)」や「発展の前触れ(芽が出る)」を表す年になると言われています。

新型コロナウイルス感染が収束しない状況で、新たな年が始まります。我慢を強いられる状況がもうしばらく続くと思います。これは発展の前触れと信じ新たな気持ちで新年を迎えましょう。

新型コロナウイルス感染拡大とともに医療を取り巻く環境は大きく変わろうとしており、法人の運営も今後の予測が難しい局面です。今が踏ん張り時と言えるでしょう。だからこそ誰かを批判する事ではなく、ひとり一人が知恵を出し合い、今、自分に何が出来るかを考えましょう。こんな時代だからこそ感謝の気持ちを持ちながら仕事、日々の生活を送りたいものです。気持ちを引き締めて新年をスタートしましょう。

これまで以上に地域に必要とされ、地域に貢献できる法人でありたいと思います。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。



## 高屋肖哲の「千児観音」

### チャリテイ美術館

#### 池田記念美術館と共に

医療法人社団萌気会 理事長 黒岩 卓夫

「千児観音」とは何かと、わかる人は少ないと思います。

まず2つの仏画を見比べて下さい。画家は高屋肖哲といい、有名な狩野芳崖の高弟です。狩野芳崖は明治初年、日本全体が洋風かぶれになっていた頃、日本画をいかに守って進化させるかに奮闘した中心人物でした。

この芳崖の名作は「悲母観音」(明治21年、重要美術品)で、慈悲深い観音が一児を生みおとす様な画になっています。一方肖哲の「千児観音」をみて下さい。この観音様をみて皆さんはどう思いますか。何を連想するでしょうか。

実は私はこの千児観音とは別の高屋肖哲の「十種観音」を所有していました。信用できる古美術商から「いいものだからまとめて持っていてほしい」と頼まれて手に入れました。ところが2018年、

東京の泉屋(せんおく)博古館分館(住友系)で「狩野芳崖と四天王」展が開催され、その四天王の一人が肖哲であることがわかりました。

私は「千児観音」が目に入るや一瞬息をのみ、いつたいこれは何事かと。狩野芳崖は1観音に1児が高屋肖哲は1観音に1000児が。しかも1観音が1000児に慈悲を与えたのではなく、不幸な千児たちがその悲しみと祈りから1観音を創出したのだと、それ以外には考えられないと思うようになりました。

高屋肖哲は田舎より笈を背負って上京し、芳崖の弟子になり、現東京芸術大学1期生になりました。将来を嘱望されながら市井に埋もれ、寺社に寄寓し日本美術史から消えたかに見えました。しかし肖哲の仏道への研鑽から貴重な作品を残しま

した。「不幸な子に幸せな母はいない」「幸せな母に不幸な子はいない」私もこの肖哲の千児観音に目覚める思いでした。昨今、子どもへの虐待、子どももの自殺が増えています。それもコロナ禍と無関係ではありません。この千児観音の姿と肖哲の思想を活かして、多くの子どもたちに手を差し

伸べ、とりわけ在宅生活をしている障がいのある子たちへの、チャリテイ募金を提供したいと思います。この美術展を準備するなかで、地域の子どもたち、学校とも連携し、「千児観音」運動をしたいと思えます。私は世代や仕事は違え、肖哲が歩んだ道と同じように辿ってきたと思います。このことも地域の私たちと共有したいと思えます。美術展は、地域に広がると同時に、この土地で時間と共に生きてきた縦軸も大切に行きます。



高屋肖哲:千児観音  
大正10(1921)年  
金沢美術工芸大学所蔵



狩野芳崖:悲母観音  
明治21(1888)年  
重要文化財  
東京藝術大学所蔵

第4話  
ソビエト  
医学研究会



パブロフと中国の経絡は、統合性では似ているが、理論としては別もの。戦後、朝鮮戦争やアメリカ主導の講和条約などで米国の傘下になったので、ソ連・社会主義国が平和の味方とみられるようになった。

その後「ソ医研」は安保闘争に参加し、医学部のリーダー的役割もはたした。卓夫は同時に医学部自治会委員長にもなっていた。

# 黒岩先生と話そう 皆でワクワクトーク

テーマ：私にとっての運動・リハビリ  
in 萌気園通所リハビリセンター浦佐



島村 康夫

大きな病気を経験し、後遺障害を抱えながらも、今よりも動ける身体になろうと、克服してやろうと前向きにリハビリに励んでいる方々が大勢いらっしゃいます。そんな利用者の本音を本人の声で聴く「リハセン利用者弁論大会」。テーマは「私にとつての運動・リハビリ」です。

自分の身体と真摯に向き合っている明るい利用者お二人が今回の演者です。その力強い言葉から、発病当時の弱音と不安、障害を乗り越えようという決意、支えてくれた家族への感謝、これからもっと良くなつていこうという気迫がダイレクトに伝わってきました。他利用者も観客として聴き入っているようでした。

長くご利用されているお二人ですが、その心情にまで及ぶ深いお話しを聴く機会はなかったのです。この弁論大会により、リハビリに励む姿勢の根源が何か解った気がしました。

最後に理事長の言った、「病気になるって生まれ変わる、新しい人生の始まり」ということは、現在の自分を受け入れることができた時に達するもので、お二人はまさにその状態にあるのではないかと感じました。

お二人ともご協力ありがとうございました。これからも元気にご利用を続けてください。そして、その勇気をみんなに分けて下さい。

萌気園通所リハビリセンター浦佐

# 黒岩先生と話そう 皆でワクワクトーク

テーマ：本音で話そう  
in かんたき萌気コム・ソフィ&ナース



## わくわくトーク

黒岩理事長が施設に出向き、利用者さんと触れ合う「わくわくトーク」がコムソフィ&ナースにやってきました。

「本音で話そう」をテーマにフリートーク形式で行ったのですが、自然と昔の話になり大いに盛り上がりました。始まる前は「何も話すことがない」と言っていた普段無口の方が、目をキラキラさせて誰よりも一歩しゃべったり、普段元気がおしゃべりな方が、緊張して無口になったりしているのが微笑ましかったです。

親が決めた結婚や、新拾いでのお会いが縁の結婚。夫婦仲良しの秘訣は「自分を抑えて相手を立てる。我慢する事」という男性、親の仕事を継ぐ事に否定的だったが、親に先立たれて複雑な思いが残っている方。貧乏で結婚式を挙げるお金もなく苦労した話。田んぼの仕事は大変で手伝うのが嫌だった子供時代の事など、一人一人が沢山の話を聞かせてくれました。

苦労話が続いた後の「今が一番幸せだ」の一言がとても印象的で、今とは違う大変な時代を生き抜いてきた方々の言葉だけに、自分が簡単に口にする「幸せ」とは重みが違ふと思えました。これらの話の中には、今の私たちが忘れてしまったもの、今だからこそ見つけ直したい事のヒントが隠れている気がします。私たちが利用者の皆様から教わる事は沢山あるなという事を改めて感じました。

最後に黒岩理事長から利用者の方々に、「皆さんには役割と価値というものがある、遠慮なんてすることは無い。明日はない、今日一日が良ければそれでいい。」という言葉で1時間の会はあっという間に終わりました。

普段も利用者さんと1対1や少人数で似たような話をしますが、今回のように一人一人が大勢の前で自分の話をする事もとても良いことだと思えました。良い時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

かんたき萌気コム・ソフィ&ナース 野澤 隆博



# Photo Gallery フォトギャラリー

1月2日に餅つき大会が開催されました。利用者の方々が食べやすいような餅を研究し、様々な対策のもと今企画が開催となりました。

「徐々に杵と臼でつく餅つきを見た」「来てよかった」など笑顔溢れるひと時を過ごせました。お正月からご利用いただいたみなさまと盛大にその場を盛り上げてくれた職員のおかげで楽しいお正月となりました。

萌気園通所リハビリセンター浦佐 山田 春樹



**餅つき大会**  
inリハビリセンター浦佐



## ○安全対策各種

### 餅について

- ・餅米とうるち米を1:1の割合で調理
- ・のどごしの良いお汁粉で提供
- ・事前に職員で試食会の実施(全2回)

### 感染症対策について

- ・マスク、使い捨て手袋等、普段の感染予防対策の徹底

### 緊急時について

- ・背部殴打法、ハイムリック法の研修の実施
- ・吸引用具の準備

## クリスマス・手品師・二人羽織・やすき節

in地蔵の湯



## 新春獅子舞

in曼陀羅華



## 勤続10年表彰受賞者

今回は、先月号にてご紹介した勤続10年表彰受賞者の受賞の様子です。



## 関越自動車道での立ち往生

昨年12月18日の初雪の際、関越自動車道において大雪による事故が発生。その影響による渋滞の最中、降雪で車が埋まって移動できなくなってしまい、2000台以上の車両が立ち往生となった。



数日前より降り続く雪で、道路状況が悪いと予想した私は、出勤途中長岡I.Cより高速道路に乗った。雪は降っていたが、予想に反し道路状況も良くスムーズに大和スマートI.Cに辿り着いた。午前7時スマートI.Cで休憩を取ったのち、朝も早いので大和で下道に降りようとしたが出口が封鎖されていた。仕方なく六日町I.Cまで車を進めるが、I.C手前7.2km地点停車。結果として約30時間にわたり車中にて過ごすことを余儀

なくされた。

路面の雪は、初めは平らに除雪されていたが時間が経つにつれ降り積もり、みるみるうちに車が埋まっていってしまう為、車のドアの開閉が維持できるよう、また排気口が埋まってしまうように注意した。

ラジオや携帯電話で知ることが出来る情報は、事故や渋滞の概要、高速道路の閉鎖区間、渋滞の距離、車の台数、気象情報といったものが主で、自分たちの置かれている状況や救助の進捗状況、今後の見通しといったことについて知ることが難しかった為、とても不安な状況が続いた。



翌日の昼12時頃になると、NEXCO東日本職員や自衛隊員による2回目の配給にてお茶とパンを頂き、手作業や重機による救助作業が徐々に近付いてきたのが見え始めた。12時半頃にやっと車を動かせるようになったので移動を始め、高速道路から降りて職場に向かった。体調の悪化は見られなかったが、2時間ほど職場で休憩したのちに帰宅した。

今年の冬は厳しい寒波が続くとの予報なので、気象情報や道路状況等の把握、無理の無い範囲での行動計画、防寒、車の燃料やスコップ、必要に応じて水分や食料等、自分のできる備えを整えて臨みたい。

萌気園二日町診療所

検査課 松本 安希斗 ⑦

## 萌気園通所リハビリセンター浦佐の 二人の『マツイさん』

いつも隣同士で座っているお二人に声をかけて見ました。

岡田さん(以下O)「…ああ!なんだあ?」

永井さん(以下N)「??」

「お二人は同級生ですが、お互いの印象を聞かせてもらえますか?」

O「私は嫁にきてドケチでいい男のじいちゃんと一生懸命働いて、家も建てて、いっそ苦労はない!永井さんと再会して懐かしくてうれしかったよ!!96歳までも生きてこうしてられるし!」

N「ま〜だ94だよ。数えて95だて。」

一同「ワハハハハハハ!!!」

N「たった2日しか違わないの、生年月日が。」

O「私は8月24日。あんたは?」

N「8月の26日。」

「誕生日は2日違い、名前も同じですが、性格は全然ちがいますね!」

O「永井さんは利口、いねんことはしゃべらん。私はバカ!良いことも悪いこともどンドン喋るが!!でも、人の悪口(あっこう)だけは言わないようにしてる!」

N「私は口下手。マツイさんは人より上手喋りだし…二人を寄せて分ければちょうどいいが^^」

O「このしょが居ないとはいないが、この席の人が一人でも欠けると、どうしたかなあと心配だよ!」

「お二人とも運動を頑張ってますが、岡田さんに会うようになってから永井さんはより元気になった気がしますね^^」

O「うん。そうだ!!!」

N「この人に会うと元気になるよ^^」

「岡田さんは約5年、永井さんは約2年。途中お休みをする時期があり、互いを心配しあっていましたが、最近はそのろって根気よく運動を続けられています。二人のマツイさんはじめ、いつも明るく、わきあいあい笑い声やお喋りが絶えないお席の皆さんでした☆多皆さん今年も元気に通ってくださいね!!」



岡田マツイさん

永井マツイさん



同じ席のみなさん

### 萌気園大和通所介護「地蔵の湯」

地蔵の湯では、今年も恒例のクリスマス会を開催させていただきました。職員の踊りや手品、パントマイム、歌、二人羽織りなどで利用者さんに楽しんでいただきました。特に好評だったのが、やすき節でした。衣装をまとった職員が登場すると、利用者さんと職員の大きな笑い声と歓声で一気に会場が盛り上がりました。見事なやすき節の踊りに利用者さん、職員は魅了されて爆笑の渦の中に包まれていました。踊りが終わり、職員の挨拶の際も歓声は止まず、聞こえてきたのは、アンコールの声。なんとアンコールに答えて2回目のやすき節。素晴らしい踊りを見て参加者の皆さんは笑顔いっぱい、寒さも忘れる程の熱気に会場は包まれていました。

出し物終了後には、大きなクリスマスケーキを目の前にして、皆さん口を揃え、「今日の晩御飯は要らないな。ケーキがでつかくて晩御飯は食べねーな」と笑顔で召し上がっていました。

2020年同様、2021年も、利用者さん、職員共に笑顔溢れる場所「地蔵の湯」をいろんな方に知っていただき、利用していただけたらと思います。

萌気園大和通所介護「地蔵の湯」中島 俊明



## 編集後記

萌気園二日町診療所「曼陀羅華」 大平 榛

あけましておめでとうございます。

昨年、曼陀羅華で行われた「黒岩先生と話そう、皆でワクワクトーク」では、新型コロナウイルス対策の中、利用者さんと黒岩先生が色々な話をされ、とても盛り上がりました。

この冬は、例年よりも多くの雪が降っていま

す。落雪等十分に注意をしてください。また、県内外を問わず新型コロナウイルスの終息の兆しも見えず、感染者が多く出ている状況ですので、しっかりと感染症対策を心掛け健やかにお過ごしください。

今年も萌気園をよろしくお願い致します。